



倭文庫二拾八編

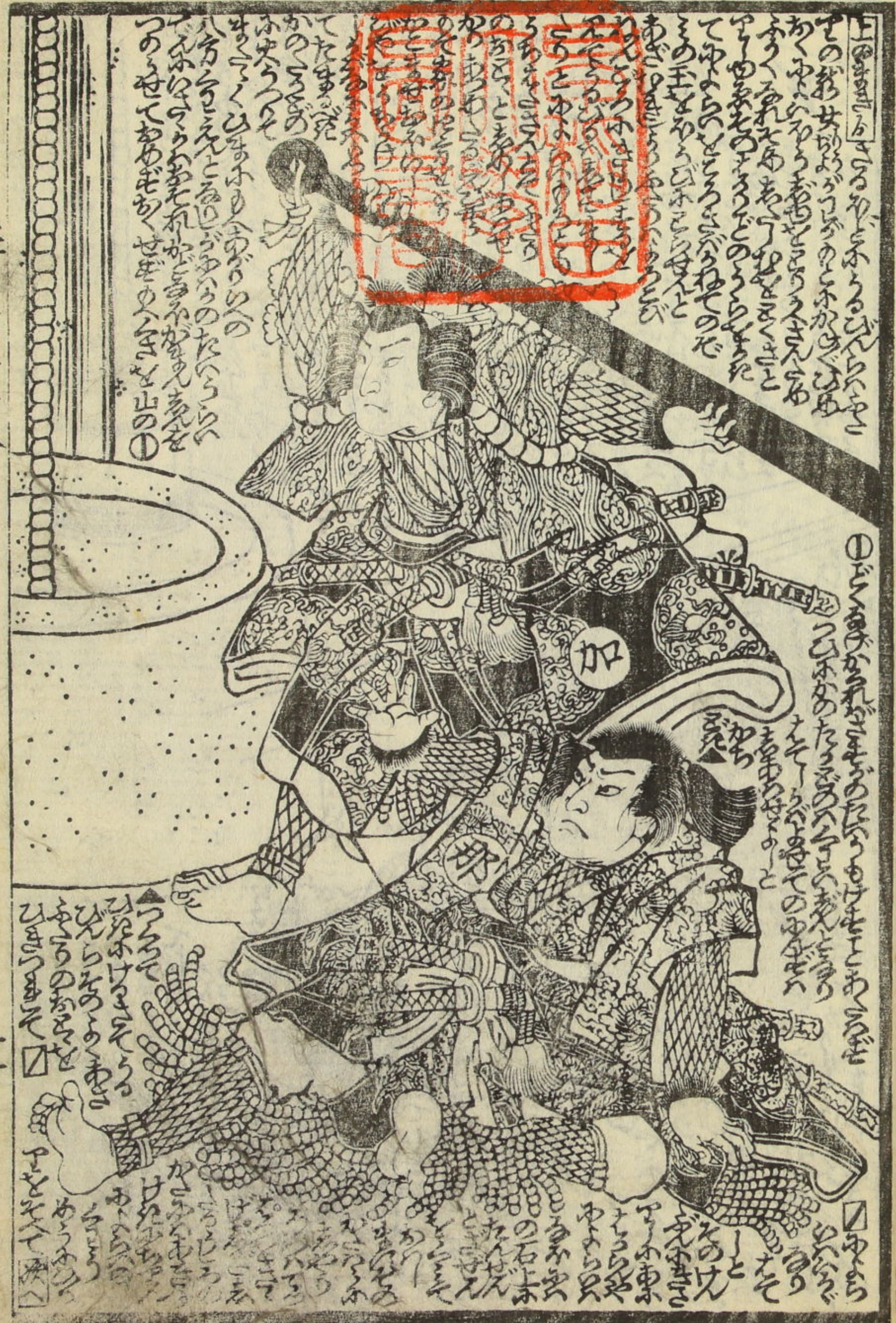
二世歌川國貞画

嘉永七年
甲寅春
新版

下

~ 13
3785
56





門 へ 13
 號 3785
 卷 56

海之陣

二指之痛

下巻

意加作

國貞画

甲寅

意加

瑞雲堂





天女傳 七

あられとて...
の光を...
あまの...
まて...
あまの...
まて...

眼...
糸...
眼...
糸...

あまの...
まて...
あまの...
まて...

あまの...
まて...
あまの...
まて...

あまの...
まて...
あまの...
まて...



あまの...
まて...
あまの...
まて...

あまの...
まて...
あまの...
まて...

あまの...
まて...
あまの...
まて...



ちやうどいふやうな事なれども
おのれもさういふ事なれども

○ちやうどいふやうな事なれども
おのれもさういふ事なれども

水戸黄門漫遊記



ちやうどいふやうな事なれども
おのれもさういふ事なれども

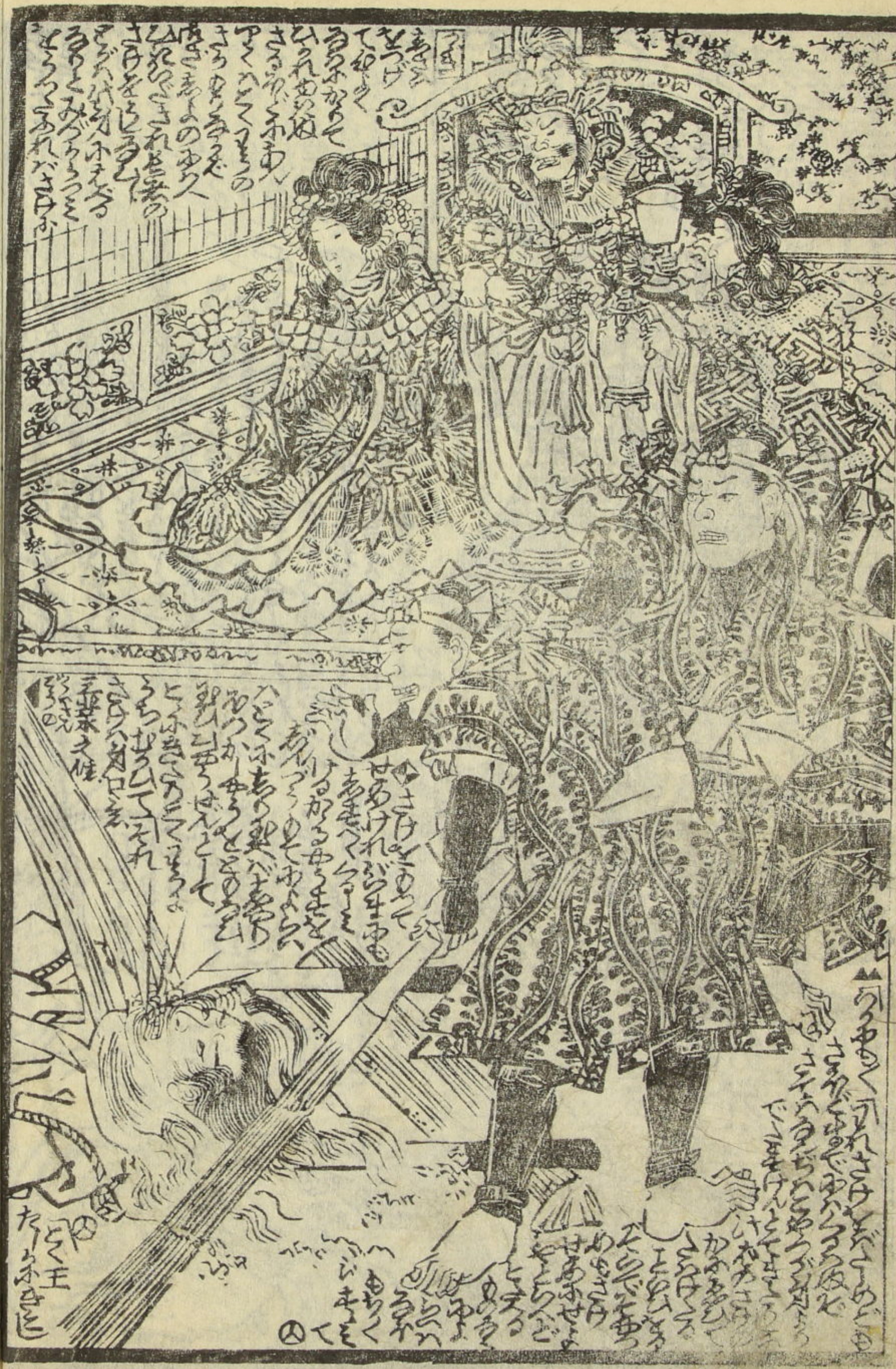
ちやうどいふやうな事なれども
おのれもさういふ事なれども

水戸黄門漫遊記





大正八年七月



大正八年七月



せむしあつての二三人は王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた
 天のひろく又うれの王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた
 可憐なるそとにひろく又うれの王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた
 可憐なるそとにひろく又うれの王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた

可憐なるそとにひろく又うれの王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた
 可憐なるそとにひろく又うれの王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた
 可憐なるそとにひろく又うれの王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた

木女入車七



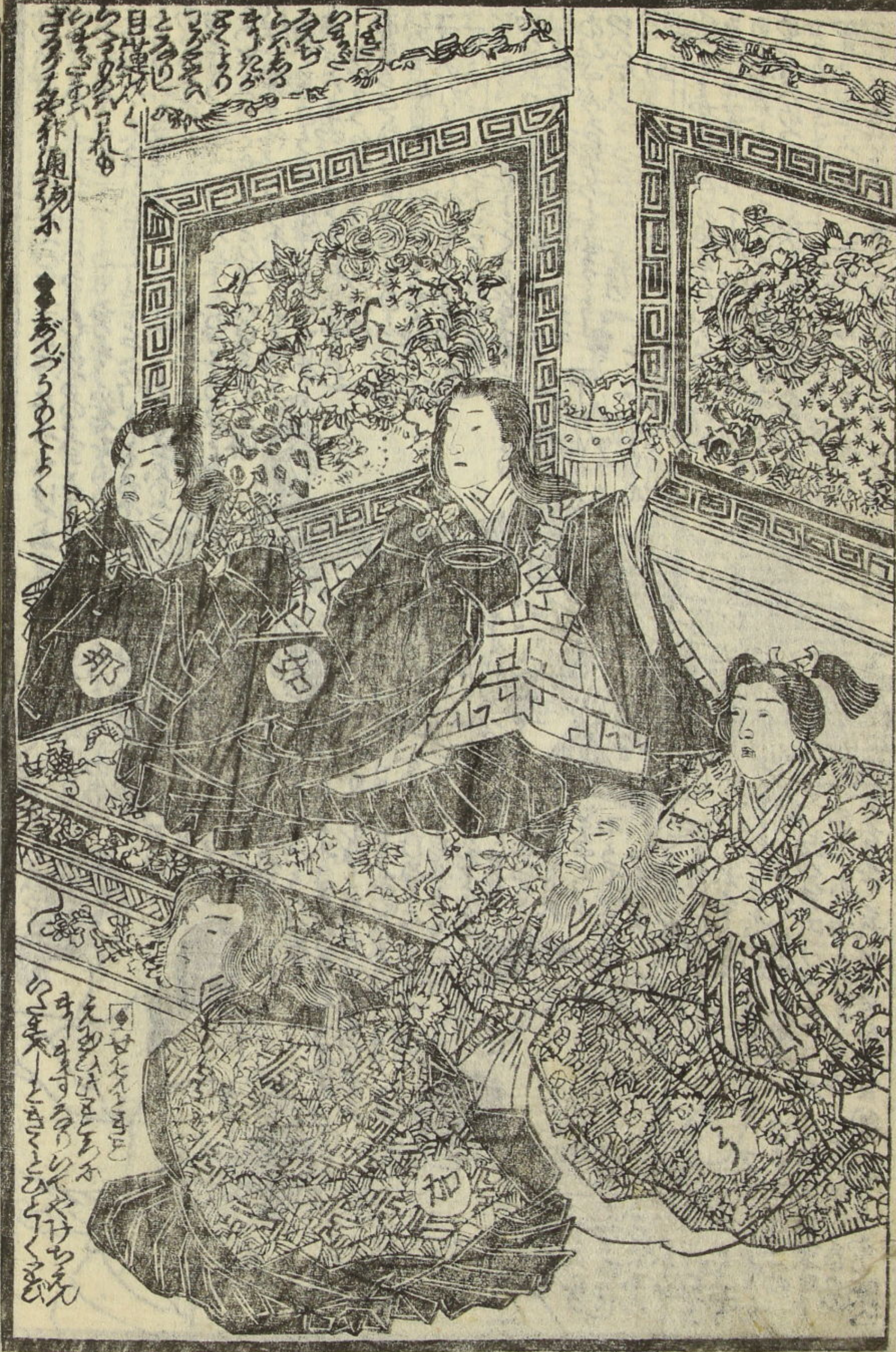
可憐なるそとにひろく又うれの王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた
 可憐なるそとにひろく又うれの王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた

可憐なるそとにひろく又うれの王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた
 可憐なるそとにひろく又うれの王さまにちかつかうてあま
 りのうらやまをいひしるゝもあつたあつたあつた

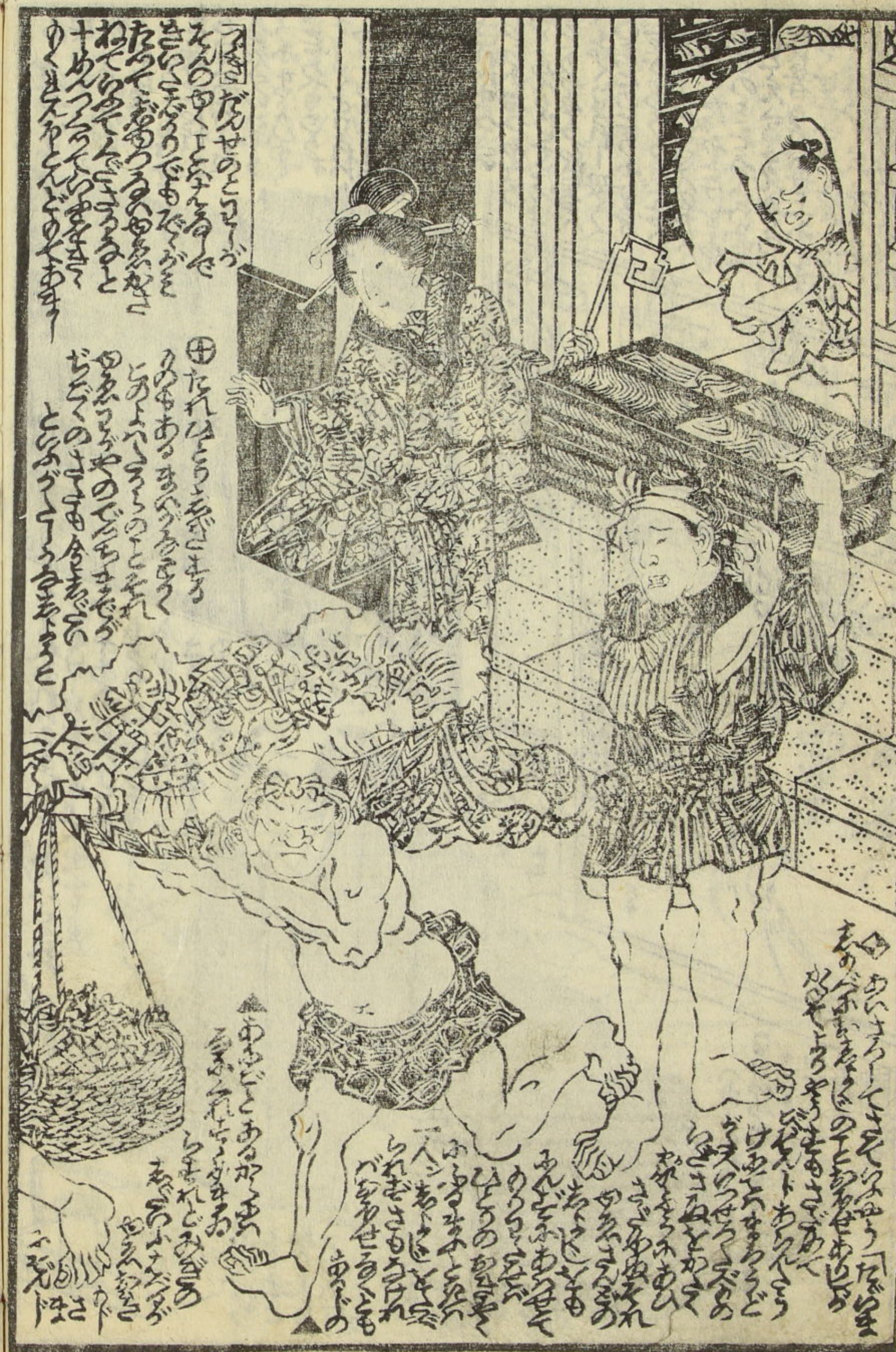
木女入車七



木下 七



木下 七



その中のうしろまを
あたりのうしろまを
おろしてうしろまを
おろしてうしろまを

たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを

たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを

たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを

たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを



その中のうしろまを
あたりのうしろまを
おろしてうしろまを
おろしてうしろまを

たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを

たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを

たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを
たれはうしろまを

万亭應賀作の歌川國貞画



嘉永七甲寅春新板目錄

男女振分双六 万亭應賀作
此双六板をりたるは、
 初編より五編と出板して、
 初編より五編と出板して、
 初編より五編と出板して、

奥奉公出世双六 同 同 画作
此双六板をりたるは、
 初編より五編と出板して、
 初編より五編と出板して、
 初編より五編と出板して、

奥奉公出世繪合極彩色 同 同 画作
此双六板をりたるは、
 初編より五編と出板して、
 初編より五編と出板して、
 初編より五編と出板して、

文字大夫常磐津よき本 初編より五編と出板して、
 初編より五編と出板して、
 初編より五編と出板して、

はる心の井 小本 初編より五編と出板して、
 初編より五編と出板して、
 初編より五編と出板して、

同々々 踊獨絶方古 万亭 作

金重繪艸紙本類 板元 形町 上州屋重藏

